

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社 アウルの森		
事業所名	グループホーム ひだまりの家(1ユニットめ)		
所在地	長崎県大村市杭出津2丁目1-7		
自己評価作成日	令和3年1月7日	外部評価結果確定日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに】の理念を掲げ、入居者のみなさんの生活パターンに合わせた生活を目標に、一日一日のスケジュールを組み立てて過ごしています。コロナ禍において、昼・夜、外出も激減しましたが、ドライブやお家で外食、レクリエーションの充実を図り、ご家族様とはテレビ電話を使用し、お話をさせていただいたり、ひだまり新聞の写真の掲載を増量するなど、繋がりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年2月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」の理念は、グループホームの役割をそのまま表している。入居者は決められた時間やスケジュールに合わせて過ごすことなく、自宅で過ごしていた時と同じように生活している。洗濯物たたみや料理をしてもらったり、その日の天気によって決まるイベントではない日常の外出など、画一的ではなく、その人らしく暮らしていくために何を支援すべきか、工夫し続けていく個別性の高いアプローチの実践が行われている。地域とのつながりも深く、そこにもグループホームの理念に真摯に取り組んでいく姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに【ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに】を掲示し日々心掛けるよう職員間でも声掛けをおこなっている	運営の方針のひとつに「個人が持つ残存能力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援する」とあり、それがグループホームの特徴、目的であるが、例えば料理が好きな入居者には時折、腕を振るってもらっている。料理のための買い物も楽しみにされており、スーパーでひとつひとつじっくり商品を選ぶのに寄り添い、つきあっている職員の姿勢は、理念を十分に理解した支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、例年通りとはいかなかったが、感染対策をおこないながら、出来る範囲で地域参加をおこなっている	現在はコロナ禍の影響があるが、通常はホームは地域とのつながりを大切にしており、地域の清掃など行事日常的に参加している。夜警に入居者(男性)も参加し、報酬の肉まんをみんなで食べるということもあった。おはなし・ハンドマッサージなどのボランティアも積極的に受け入れており、その際は、入居者が湯茶の接待をし、自宅と同じような様子である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長・民生委員の方には運営推進会議を通して認知症の方々の生活や職員の支援方法などお伝えし、ご理解いただけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面での会議となったが、長寿介護課、地域包括センター、ご家族様などの意見、アイデアをサービス向上に活かしている	書面での会議ではあるが、工夫がされており通常と変わらない活発な意見交換がされている。その要因は、運営推進会議の資料がたいへん見やすく、わかりやすく、丁寧に作られていることによる。定期的に「ユニットにおける身体拘束の現状について」を議題にされており、身体拘束事例の集計・内容、夜間帯の活動状況により理由や危険度を把握し分析しており、具体的な資料が開示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課、地域包括センター、生活保護課、安心センターの職員とは常々連絡を取り合い、協力、ご指導をいただいている	運営推進会議のなかで、ホームの状況を適切に把握してもらっており、意見や助言を受けている。入居者の相談をするなど会議出席者とはまた違う担当者のサポートもあり、行政機関との情報共有、協力関係はしっかり構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化について委員会を設け、分析、話し合いをおこない、現状を運営推進会議で報告し、拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、転倒などの危険を防ぐためどうしても必要な場合は、家族・本人と話し合い理解を得るようにしている。入居者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な生活を支援するために、運営推進会議でも開示されている、身体拘束事例の検証などにより、十分な検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置していて、不適切なケアも含め、内部研修をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関する制度の理解が出来ているとは言えないが、新入居者様が成年後見人制度を適用されているので、今後しっかり学ぶ機会を持ちたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方が理解・納得していただけるように十分な説明をおこなっている 必要とあれば何回でも不安や疑問点をお聞きし安心していただけるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からのご意見は都度、職員間で共有し反映させ、それらを運営推進会議(コロナ禍において書面会議)で報告している	現状は、面会時に家族等への声掛けなどで意見・要望を伺うようにしている。アンケートの送付も行っているが、負担となる可能性もあり、ホームよりの情報発信を積極的に行うようにしている。「ひだまりの便り」に写真を増やし、様子を多く伝えることで相互の話題が増えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、管理者より代表に報告し反映させている	おおらかな雰囲気の中ですべてに合わせた役割分担が自然と行われており、理念である「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」の支援へとつながっている。ヒアリングの中ですべて、管理者、職員相互に感謝のことがあり、互いを尊重する職場環境であることが見て取れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実情、勤務状況などについて把握しており、資格や実務状態に応じて手当を用意し各自が向上心を持って働けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修は激減しているが、内部研修を通じてケアの向上を図ったり、勤務しながら資格取得ができるよう勤務体制をサポートしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアセミナーに参加し同業者と会うが、それ以上のことはなく、事例検討会に参加することで意見交換ができています それもコロナ禍で減少している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の不安や思いが一つでも多く聞き出せ、環境を整えられるよう、受容・共感・傾聴に心掛け、コミュニケーションを図り関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや思いを家族と一緒に考え、解決へ向けられるようご意見を伺う時間を多く持ち関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前に、ご本人、家族、管理者とケアマネが話し合い、必要なサービスの説明をおこなったうえで最も適したサービスを検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が率先しておこなわれる事などに対しては受容・共感し、それぞれの現在の身体機能、精神状態、思いを汲み取り、お互いが支えあい、後押しできる関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において、面会の制限を設けなければいけなくなったが、介護計画書にて、その時その時の状態、支援方法などで、現状をお伝えしたり、ちょっとした体調の変化が見られた時には、無料通信アプリでお知らせし、急を要する時にはお電話を差し上げ、ご意見を伺うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出支援が激減し、今はご家族様との関係を電話や無料通信アプリを使ってテレビ電話をして頂く位に、とどまっている	コロナ禍において関係が途切れないようzoom、スマホの使用支援や、lineでの発信を行っている。またドアを開けて2m間隔での面会をしてもらうなどしている。新たに作った馴染みの店に行くことができなくなったが、取り寄せを楽しむなどさまざまな工夫をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの特徴を理解し、一人ひとりが孤立せずに良好な関係で支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望に応じて、退去後も荷物をお預かりしたり、ご家族様との連絡をとりあい、ご様子などお聞きしたりし関係の継続をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関われる時間を持ち、その時々のお思いを聞けるようにしている。得た情報は入居者管理表に記入し、職員間で共有するとともに、必要であれば、介護計画に繋げている	入居前に可能な限りホームの見学を促して、入居することに一定程度合意形成が得られた時点で情報収集を開始している。このやり方は本人の意向や希望と、ホームの環境や方針がマッチングしているか確認する目的である。思いや意向に関する情報収集は多岐にわたるが、特に対象者の元気な頃の情報には力を入れている。一方、入居後の意向の把握については、言葉だけではなく眉間のしわや身体の傾き具合、口を開ける大きさ等、非言語的側面からも気持ちを察している。入居者の新たなに知り得た情報の共有方法については、入居者管理表に赤ペンで記入して把握しやすい工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様より今までの生活歴を収集し、他サービスをご利用されていた方については、実態把握票をいただき職員間で周知徹底を図っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や心身状態を日常生活記録に記入し、急変時は無料通信アプリを使用し情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の短期目標を書いてある入居者管理表に毎日支援内容を記入し、それを個人記録へ詳細に書き写している。そして月一回のケアプラン会議で検討し、ご家族の意向や要望も担当職員が窓口となってお伺いしたうえで、介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に計画書の作成を行っているが、作成に至るプロセスは以下の通りである。計画書に示してある短期目標は「入居者管理表」に内容が記載されているため、職員は支援内容を把握しやすい工夫が施されている。このような記録を基にして、入居者の状況を把握するケアプラン会議を月に1回実施している。更に計画書の進捗状況を確認するモニタリングを3ヶ月に1回実施して、目標と支援内容に差異が生じていないか、職員皆で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標に対する記録内容の書いてほしいことを担当職員が書き出していて、日々の様子やケアの実践内容がわかりやすくなっていて、職員間で共有しながら、介護計画の見直しをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせた対応を基本に入居者様が抱える問題が解決できるような支援や安心センターを活用したりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恒例の地域行事や保育園、学生の実習など、今年度においては、コロナウイルス感染症の影響で実施出来なかったが、近隣の理容室には予約を入れ、お互いが十分な感染症対策を行ったうえで、カットや毛染めをお願いするなど、一人ひとりが自由にお洒落を楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医があられる場合やご家族の希望通りに受診に対して支援を行っている。特にかかりつけ医を持たない方には、本人、ご家族と話し合いのうえ、迅速に適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定について、基本的なスタンスは入居前の医師に継続してお願いするという考え方である。これは長い期間、対象者と関わっている医師の方がその人のことをよく理解している、また、よく知っているからとの考えに基づいている。新しく入居した際の初回の受診時は看護師が立ち合い、医師との関係を築きやすくしている。受診の際は基本的にご家族が対応するが、ケースバイケースで職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、急変時適切な対応や受診をおこなっていて、看護師不在の時でも、すぐに連絡がとれるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病状の情報収集の為、必ず病棟NSに尋ね、MSWとの話し合いも含め病院との連携をとりあっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面にて終末期に関するご家族の考え希望を確認し、事業所ができる支援内容を十分に説明し、主治医、家族と共に取り組んでいる	ホームでは希望に応じて看取りや重度化した際の対応を行っている。まず看取りについて、訪問調査時も実際に看取り支援を行っている入居者の姿を確認した。方針等の共有に関しては、入居時に「終末期ケアに係る対応指針」を説明して、考え方を口頭及び書面で伝えている。また、その後は年に1回入居者の誕生日月に説明をして、意向の把握に努めている。更に実際の看取り期に入った際は、ご家族と見解の相違が生じないよう、支障のない範疇で打ち合わせを重ねるようにしている。看取った後については必ず職員皆で振り返りを行い、管理者は入居者に寄り添った職員を労うと共に、次回の看取りの際に、より一層円滑な看取りが実施できるよう、反省点の集約も行っている。一方の重度化した場合の対応については、「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいて、ホームで対応できる限り生活支援を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一回の内部研修にて事故発見時の対処方法、連絡の取り方、事故報告書の書き方までを定期的に取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p> <p>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>防火訓練を年6回(火災・水害・地震を想定)実施している。昨年は実際に2回、事業所からホテルや指定避難所へ移動している。施設内は禁煙は勿論のこと、自動消火ガスレンジ、防火カーテン使用、近隣で放火があったため、防犯カメラを2か所設置している</p>	<p>令和2年度にホームの所在する地域に豪雨警報や、台風接近に伴う避難勧告が発令されたため、実際に避難した際の状況を確認した。豪雨警報の際は雨雲接近前にホームの2階に全員垂直避難を完了したが、法人代表と協議の上、近隣のホテルに入居者を再避難した。この時の反省点として、誰がどの部屋に滞在しているのか情報の共有が課題であったとのこと。次に台風接近時は、非常災害時に公的な避難先として選定されている場所へ避難したとのこと。この時は避難するかどうか判断に迷ったが、避難場所に行くことが活かした訓練の一環という考え方も含めて実施した。他の住民も避難しているため、どうなるか不安もよぎったが、たまたまプラット大村(避難所)の中会議室一つを提供して下さったため、いつも一緒にいる職員が傍にいたので安心感があったとのこと。課題としては、布団等の備品の搬入出が大変であったとのこと。このように普段の訓練以上に実際の場面での振り返りを重要視して、今後の訓練に活かしていく方針であった。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇教育委員会を設け、言葉かけやスピーチロックについても内部研修をおこなっているが、時折職員同士で注意しあうこともある</p>	<p>入居者の人権を尊重した支援方法やプライバシー保護に関する周知については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で外部研修は参加できていないが、内部研修においてホームの考え方や言葉使い等、特に注意すべき点を中心に学びを深めている。このような取り組みを続けてはいるものの、入居者に対する職員の言葉かけが友達に接するような場面も稀にあるため、入居者と職員との関係性や、不適切な支援がどのように発展していくか再確認する必要がある。</p>	<p>入居者支援に必要な最低限のマナーとして言葉使いや目線を合わせたコミュニケーション等が挙げられる。このような留意点をチェック表形式にする等、定期的に職員自らが振り返りを行う機会の確保が望ましい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員が決定し実行するわけではなく、入居者本人の理解できる能力に合わせながら説明をおこない本人様の思いを汲み取り支援をおこなっている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にとらわれず、出来る範囲で起床から就寝までを一人ひとりのペース、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容については可能な方にはご自身でおこなっていただき、そうでない方には職員が常に支援し、ヘアカットやヘアカラーはご希望時に理美容室に同行している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍において、職員と一緒に食事をすることは出来なくなったが、月一回の外食も【お家で外食】と形を変えて、ご希望をお聞きし、食の楽しさを提供している	ホームにおける食事提供に関する特徴的な取組みは次の通りである。1つ目に提供時間は入居者のペースに合わせて、朝が苦手な入居者は遅い時間に提供する等柔軟に対応している。2つ目に主治医に相談の上、晩酌する入居者に時間を合わせて食事提供したり、1日に1食程度であればカップラーメン等居室で好きなものを食べてもいいこととしている。3つ目にドレッシングや醤油等は数種類テーブルに置いて選べるようにしている。4つ目に新型コロナウイルス感染拡大の影響で外食を控えているため、テイクアウトした品を「お家で外食企画」と銘打って実施している。他にも柔軟な対応を行っているが、上記の例のように食を楽しむというよりは、自宅さながらの食事提供を日常的にホームで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や脱水予防に十分注意し、食欲不振時は嗜好品や栄養補助食品・飲料水などを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせたケアセットを使用し、口腔ケアをおこなっている。必要に応じて歯科医に相談、受診につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体介護の重度化により、半数以上の方がおむつ使用ではあるが、個々に合わせた排泄パターンの把握に取り組み、状況に応じてトイレ誘導を行っている	排泄の自立支援の原点は、入居者それぞれの排泄パターンを把握することから開始している。入居して間もない時期は信頼関係重視で、あまり無理強いせずにパターン把握を優先しているとのこと。1つの例として、トイレに誘導することが困難で放尿していた入居者に対して、どのようにすれば円滑に対応できるか試行錯誤を2カ月半重ねて、フロア内を歩き回るまでは誘導せず、待つことで無理なく誘導できたとのこと。このように入居者それぞれに合わせた支援を排泄の面でも徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行いながら、一人ひとりの排便パターンを把握し、内服だけに頼らず野菜ジュースや果物、ヨーグルトなどの提供、水分補給や適度な運動で排便を促すよう支援している。時には医師にも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2回以上/Wの入浴を基本として、曜日・時間を決めず、一人ひとりがその日の状況に合わせた入浴ができるよう支援している	入浴支援に関して基本的なルールは設けているが、あまり型にはめ過ぎないように柔軟に対応しているとのことであった。例えば不眠傾向にある入居者は午後からゆっくり入浴して安眠を促したり、1日の入浴者はあまり多くせず、時間にゆとりのある入浴支援を実施している。最後に冬場は肌が乾燥傾向にあるため、保湿の点に留意しているとのことであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に応じて個々の居室にソファを置いたり、共有スペースにも大きなソファを設置し自由に休息できるようにしている また、寝酒を飲まれる方には主治医、ご家族に相談、確認したうえで、夕食後にゆっくりとした時間を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの疾患や処方薬を把握し、確認できるよう個人ファイルに保管している。個人別に用法・用量を掲示し、変更時は都度訂正している。服薬に対するヒヤリハットもあり、薬の重要性、事故防止対策についても内部研修をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為、ドライブ・外食・買い物などが制限されているが、車窓からの見学・お家で外食・移動パン屋の訪問・レクリエーションの充実などで、気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、外出支援は激減しているが、少人数で近くを散歩や感染症対策を徹底してある近隣の理髪店には希望時に出かけてもらっている。部外者と接触がない所への外出も数少ないが支援している	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ホームの外出の機会は激減したとのことであった。ホームではさまざまな場所に柔軟に外出することを特徴の1つとしていたため、1日も早くコロナ禍が明けることを切望している。しかし、このような状況下においても外出を控えるわけではなく、感染対策を十分に施しながら少人数で近所を散歩したり、眺めのいいところにドライブに出かけてパンを食べたり、可能な限り楽しみを見出す活動を続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方や手持ちがないと不安に思われる方の場合にはご家族と相談の上で、少額の現金を持っていただくようにし、ご自身で支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持ってらっしゃる方は、ご自由にかけられ、電話の要望があれば、すぐ対応し、コロナ禍において面会制限があるのでテレビ電話を利用しご家族様とのつながりを大切にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍において、定期的な換気実施の為、入居者に事前のお知らせ、室温・湿度の確保に努めている。共有スペースには季節感を取り入れたクラフト・飾りをおこなっている	今まで同様に気がけていることは、季節感を感じてもらえるようなディスプレイと加湿や空気の循環とのことであった。現在、特に留意している点は共用空間が密になり過ぎないように、入居者同士の距離を可能な限り保つことと、空間浄化機を導入して、空調管理を徹底している点であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルの他にソファやサイドテーブル、加湿器を置き、その時の気分で思い思いに過ごせるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご自宅で使用されていた物を持ってきていただき、仏壇やDVD、小物など、ご家族様と一緒に設置し、本人が居心地よく過ごせるように工夫している	居室には希望に応じて冷蔵庫やポット、トースター等危険の及ばない範囲で搬入している。このような点からも自由な生活が保障されていることが確認できる。また認知症を発症して様々なリスクが考えられる中、自分の部屋がどこかわからなくなりがちな入居者用に目印を付けたり、1人で立ち上がって転倒の可能性がある入居者にはドアに鈴をつけて歩行を見守る等、職員で話しあって様々な工夫を確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護度の重度化と車椅子使用者が多くなっ てはきているが、座ったままでできることを 分担しておこない、日々の生活の中に自立 した時間を設けている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社 アウルの森		
事業所名	グループホームひだまりの家(2ユニットめ)		
所在地	長崎県大村市杭出津2丁目1-7		
自己評価作成日	令和3年1月7日	外部評価結果確定日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」の理念のもと今年はコロナ禍で外出があまり出来ない中、衛生・体調に気を配りながらドライブや個別の買い物等の外出支援を行っています。施設内では週に一度のカラオケや不定期でクッキング、「おうちで外食」としてテイクアウトの食事も楽しんで頂いています。また敬老会やクリスマス会では入居者・職員でゲームを楽しんだり、月2回の移動パン屋さんを楽しんだりしています。ご家族も建物の外より一定の距離をとって面会をして頂き、定期的に動画を送ったりビデオ通話をして御家族の安心に繋がるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年2月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」の理念で日々心がけている。食後は入居者同士で声を掛け合い片づけをしたり、クラフト製作をしたり、自主的に取り組む姿が見受けられる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、地域清掃への参加、近隣の薬局や理容室を利用し、町内との関わりを持つよう努めている。夜勤者が近隣のボヤを発見し、大事にならなかった事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は高校生やSTなど学生の実習やボランティアの受け入れ、近所の方の避難訓練参加がありましたが、今年はコロナ禍で出来ず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催がコロナ禍で各関係者へ書面にて報告、アドバイスを頂きサービスに生かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面での運営推進会議の報告に返答して頂く形で、市での取り組みを聞いたり事業所の実情等を報告。助言など頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を中心として2階建ての構造による階段からの転落防止(昼間居室での休憩時に階段の手前に柵をして、夜間は柵に施錠)の為、ご家族及びご本人にご理解を得て1年に1度書面にて身体拘束の同意を頂き3ヶ月に1度見直し、運営推進会議で報告・検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアを全職員が理解しようとし、周知徹底をする為内部研修と職員会議での報告を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用する入居者はいらっしゃるが、権利擁護に関する制度の理解は出来ていない職員がいる為、内部研修の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明を行い、入居契約時は書面での説明、ご家族と読み合わせを行い納得された上で契約書・同意書の記入を頂いている。退去時は退去後の相談含め、説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の代表の方に参加頂きご意見を聞く。玄関に意見箱を設置するも利用される事が少なく、請求書にアンケートを同封し意見を頂いたり、年に4回発行の新聞を郵送しご家族に届けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会としている。意見や提案は話し合い、必要とされる案件は管理者から代表へ伝達する形で対応してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実情を把握し、勤務についての配慮を行い、資格取得に向けて支援をしている。研修の機会も作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を通じてケアの向上を目指し、各職員のレベルに応じた外部研修への参加の機会を設けている。また資格取得が出来るよう勤務体制等のサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で参加回数は少ないが、ケアセミナー等の外部研修に参加し、交流の機会を設けているが、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問の活動は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の思いが聞き取れる環境を整え、コミュニケーションをとり受容・共感・傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事や思いと一緒に考え、解決へと向けられるようご意見を伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前に、ご本人・御家族・管理者とケアマネジャーが話し合いを持って必要サービスの説明の上、最も適したサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が率先して行う事に対し、受容、共感、個々の現在の身体機能、精神状態、思いを汲み取り、後押しできるようにお互いが支え合うことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で御家族の面会は、玄関にてソーシャルディスタンスをとり、行っている。テレビ電話を使い、入居者と御家族の距離を縮める工夫を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室でカットをしたり、御家族へはいつでも電話できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの特徴を生かして頂けるよう、その時々に応じて席替えを試みたり、職員が介入できるようにしている。入居者同士が仕事を分担してみたり、他の入居者のお世話をする場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の影響もあり、御家族と連絡を取り様子を伺ったりしている。他所への移転までの荷物の預かりの相談には、できる限りの対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関われる時間を持って、その時々 の思いを聞けるように努めている。得た情 報は職員間で共有し、思いを伝えるのが困 難な方に対しては様子や表情から取り込め るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人や御家族より生活歴の情報を収集 し、その方の今までの生活を思い出させる ような居室の整備をして、会話の中からも 気づきを書き留め情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を日常生活記録に記 載し、全職員が把握出来るように努めてい る。急変時などは無料通話アプリを使用し、 情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当職員による アセスメント・モニタリングを基に検討会議を 月に一度行い、現状に即した介護計画を作 成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と日々の業務連絡にて確認し、詳細は ユニット別の無料通話アプリで送り情報共 有し、実践や介護計画の見直しに活かして いる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に合わせた対応を基本に、ご本 人が抱える問題が少しでも解決できるよ うな支援や、安心センターの公的サービスの 活用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事への参加が抑制される中、ドライブたテイクアウトで外食の雰囲気を楽しめる工夫を行いつつ個別の要望にもできる限り添えるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医がある方は引き続き利用して頂きかかりつけ医が無い方にかんしては協力医療機関を提示し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、急変時等適切な対応、受診に繋げられるよう対応している。看護師不在時にも電話にて対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍でご本人との面会が制限される為、入院期間中はご本人様が居られるフロアまで行って、同階の関係者から様子を引き継ぎ持ち帰り、同職員間で情報共有を行い、退院時にはスムーズな対応ができるよう支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面にて終末期に関するご家族の考え希望を確認後、事業所ができる支援を説明し、同意を戴いており、沿った形で支援できるようにしている。いつでも誰もが看取り看護を実施できるように内部研修を実施し、受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者の急変、起こり得る事故について、応急手当初期対応について看護師を中心に内部研修を定期的に行いマニュアルを作成しているが、緊急時対応できる知識を引き続き身につける事が十分に必要と考える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災訓練を年に6回行っている。今年度はコロナ禍の為、地域の住人の方の参加は控えて頂き自主訓練を行う。施設内は禁煙、台所のガスレンジは自動消火タイプを使用、カーテン・のれんは防火タイプの物に移行中。災害時の食料品、水分等は専用のプレハブ内に備蓄している。消火器は1Fに2本、2Fに3本設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックについての認識は高まり職員間で注意しあう等、声掛け等も気をつける事が出来つつあるが現状に満足せず心がけていく必要がある。プライバシーの確保にも注意し、記録物等個人情報の取り扱いを徹底するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で行動出来る様に働きかけたり本人の理解できる能力に合わせてながら説明を行っている。本人様の思いが通る様今後も支援を継続したい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで出来る限り本人のペースを大切に支援し、体調やその日の気分に合わせ対応出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択可能な方に、起床時衣類を選んで頂き整容についても可能な方には自身で行って頂いている。支援が必要な方には職員が介入し行っている。カラー、マニキュア、ヘアカット等希望する方には近隣の理容室へ職員同行する等、対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備などは職員と供に行い、下膳、皿洗い拭きについては可能な限り自身で行ってもらえる様、支援・介入している。コロナ禍の中でも「おうちで外食」等、外食気分を味わって頂ける計画等を行い実践している。また、誕生日にはケーキを準備する等、食の楽しみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が水分・食事量の把握を行い脱水予防、食欲不振時はし好品や補助食品を提供し栄養摂取や水分の確保の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、援助が必要な方に対しての口腔ケアは支援できている。夕食後には洗浄剤に漬け、清潔の保持は出来ている。必要に応じ歯科医師に相談し、処置を行って頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン視力低下などの状況をふまえ、行動や言動に注意しながら声掛け・誘導し、出来る限り失敗なくパットに頼らない排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、個々に合った形態など変化をつけながら水分摂取に努め、適度な運動で排便を促すように支援している。内服薬の作用・副作用についても今以上に理解し、便秘の予防に取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低2回以上/W入浴出来るようにしている。本人の希望やその日の状況・状態に合わせた入浴支援を行っている。一日の入浴者の数を少なくし、ゆとりをもって楽しみに入浴されるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は個々の睡眠パターンを理解し、安全に落ち着いて安眠出来る様配慮している。日中も希望・体調に合わせて、居室・畳コーナー・ソファ等で休息される様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、確認出来る様に個人ファイルに保管している。内服薬は個々に用法・容量を掲示している。変更時はその都度ラインにて全職員への周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴・得意な事・やりたいことなどの思いを聞き取りながらレクリエーション・クラフト製作・ドライブ・外食・家事・買い物等実施し、生きがいのある充実した日々の生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出かける機会が激減したが、本人様の希望するものや、週に一度みかんの注文をとり職員が買いに行ったり、移動パン屋さんで購入を楽しんだりされるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来られ本人の希望があれば、自身で所持して頂けるよう支援している。外出・買い物時には可能な限り本人に支払をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはすぐ電話の利用をして頂けるよう支援している。静かに会話ができるような配慮も行っている。手紙については、字を書ける方には文章と一緒に考えたり、投函をお受けしたりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには楽しみながら制作からなるべく飾り付けまで職員と行い、明るい雰囲気作りをして季節感を感じられるような工夫を行っている。また加湿・空調等により、居心地のよい空間を提供できるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには畳コーナーにテレビやソファがあり、それぞれが自由にゆっくりとした時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が安心して過ごせるように希望があれば、馴染みの物を持って頂き、自宅に近い雰囲気作りに努めている。危険防止に配慮しながら使いやすいように家具の配置も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室、トイレの場所がわかるように目立つような矢印・絵等を貼付し、迷うことがないようにしている。		